

平成28年度第1回防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 平成28年4月26日(火曜日) 午後3時30分

2 開催場所 防府市役所1号館3階第1会議室

3 出席者

防府市長 松浦正人

防府市教育委員会

委員長 小松宗介

委員 清水智恵子

委員 鈴木隆子

委員 村田敦

教育長 杉山一茂

4 説明のために出席した者

学校教育課長 時乗 順一郎 学校教育課主幹 柳井 崇史

学校教育課指導主事 河村 直子

5 会議に従事した職員

教育部長 末吉 正幸 教育部次長 原田 みゆき

教育総務課長 原田 一幸 教育総務課長補佐 片山 裕美

○教育部長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第1回防府市総合教育会議を開催いたします。

初めに、防府市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長 新しい年度に入りました。先生方には、日々、防府市教育行政並びに子供たちのために多大な骨折りを頂戴しているところでございます。

熊本では、大変な災害に見舞われ、まだ進行形と理解をしておるところでございますが、改めて、多くの方々の御冥福をお祈り申し上げるとともに、可能な限りのお手伝いをさせていただきたいと、このように感じているところでございます。

本日、第3便になりますが、支援物資について手配をいたしたところでございます。各方面の御協力に改めて感謝いたすところでございます。

それでは、本年最初の防府市総合教育会議を始めたいと思います。皆様方のお力添えをお願い申し上げ、冒頭の御挨拶といたします。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、市長にお願いします。どうぞよろしくをお願いします。

○市長 それでは、ただいま申し上げましたが、まずは、黙祷を捧げさせていただきたいと思えます。会場におられる皆様、全員、御起立をお願いいたします。全員の御起立をお願いいたします。

[傍聴者 さっきやりました。との発言あり]

○市長 何回でもやりましょう。黙祷をお願いいたします。

[黙祷]

○市長 お直りください。御着席いただきます。

それでは、早速、議事に入らせていただきたいと思います。

議題として上げておりますが、「防府市の学力向上について」を上程いたしたいと思います。

説明をお願いいたします。

○学校教育課長 失礼いたします。本日の議題であります、「防府市の学力向上について」学力向上推進室長（学校教育課主幹）の柳井が説明をいたしますので、誠に申しわけございませんが、スクリーンに御注目をお願いします。説明が10分から15分ぐらいかかりますが、よろしくをお願いいたします。

○学校教育課主幹 それでは、失礼いたします。

防府市内の小中学校に在籍する児童生徒の学力における現状と課題について、平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析をもとに御説明いたします。

子供たちを取り巻く環境が大きく変化する中、21世紀を生きる子供たちには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和がとれた生きる力が求められます。現在の学習指導要領では、この生きる力をバランスよく育むことを目指しています。

生きる力の3要素のうちの一つである「確かな学力」とは、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力のことです。この「確かな学力」と学習環境の実態把握を目的の一つとして、平成19年度から始められたのが、全国学力・学習状況調査です。

この調査は、実態把握のほかに、学校における指導の充実や改善を図るというもう一つの目的

があります。よく、文部科学省等の調査官の説明におきましては、学力・学習状況調査の問題は、子供たちにつけさせたい力を問題としてあらわした、国からのメッセージですと言われます。

では、全国学力・学習状況調査の具体的な内容について御説明いたします。

スクリーンは、文部科学省から出ています学習調査についてのリーフレットから抜き出したものになります。

調査対象は、小学校6年生と中学校3年生の全児童生徒になります。実施の時期は、毎年4月の第3または第4火曜日となっています。本年度は、4月19日に実施いたしました。

調査の内容は、教科に関する調査と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の2つがあります。教科に関する調査は、小学校では、国語と算数、中学校では、国語と数学の2教科で実施されます。それぞれにA問題と呼ばれる主として知識に関する問題と、B問題と呼ばれる主として活用に関する問題の2種類があります。よって、各学年、合計4種類の調査を受けることになります。

それでは、具体的な問題を1問ほどお見せいたします。

今、お見せしておりますのは、平成27年度に小学校算数B問題で出題をされたものです。お読みいただくとわかりますが、「20%増量で480ミリリットルになったとき、もとの洗剤の量は何ミリリットルですか」という問題です。皆様、おわかりでしょうか。これに関する正解は、480割る1.2で400ミリリットルという計算になります。このような割合の問題につきましても、子供たちはとても苦手としており、大体5人に1人しか正解をすることができない問題となっています。

このように、定着に課題がある問題につきましても、毎年、継続的に出題をされており、授業改善の指標として役立っております。

また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査は、児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活に関する児童生徒に関する調査と、学校の指導改善の取り組みや教育環境に関する学校長が回答する学校に関する調査の2つがあります。この2つの調査により、学習環境や生活習慣の確立に向けた保護者への働きかけや補充学習の実施などの具体的な改善につなげることができます。

それでは、教科に関する調査結果の概要、児童生徒質問紙調査結果の概要、学校質問紙調査結果の概要の3点について、順に、防府市内の小中学校に在籍する児童生徒の学力における検証と課題を御説明いたします。

まず、1点目の教科に関する調査結果の概要についてです。

平成27年度調査では、防府市の小学校の平均正答率は、国語A・Bと算数A・Bの全てにおいて、全国平均を上回っております。防府市の中学校の平均正答率は全国平均に対して、全てに

おいて少し下回っております。

こちらは、平成22年度以降の経年変化のグラフとなります。小学校におきましては、年度による変動はあるものの、上昇傾向にあります。中学校におきましては、年度による変動はあるものの概ね横ばいと考えることができます。

続いて、区分ごとの結果を御説明します。

二重丸で表現してありますのは、相当数の児童生徒ができています内容、黒三角で表現してありますのは、課題のある内容となります。

小学校国語においては、漢字を正しく読むこと、例を挙げて説明文を書くことや、目的に応じ、文章の内容を押さえたり、要旨を捉えたりすることはできていますが、反対に、取材した内容を整理しながら記事を書くことや、文章と図を関連づけて自分の考えを書くことにも課題があります。

小学校算数においては、四則計算をすることやグラフにあらわされている事柄を読み取ることにはできますが、先ほどお見せした問題の比較量から基準量を求めることという割合の概念の定着が悪いようで、こうした問題に課題があります。

中学校の国語においては、漢字を正しく読むことや、効果的な資料を作成し、活用して話すことはよくできていますが、小学校同様に、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことや、根拠を明確にして自分の考えを書くことのような、自分の考えを書くことに課題があります。

中学校数学においては、四則計算はよくできていますが、数学的に表現をすることや説明をすることに課題があります。

次に、2点目の児童生徒質問紙調査結果の概要についてです。

質問紙による調査の結果から明らかになった現状と課題をまとめたものです。これは、児童生徒に学習意欲、学習方法、学習環境、生活に関するアンケートを行った結果についてまとめてあるものです。

二重丸と黒三角と星に分けて表現しておりますが、二重丸については、全国、県平均を上回っているということで載せております。

黒三角については、おおむね50%以下だったもの、それから星印については100%を目指しているが、いまだ100%に至っていないものです。

例えば、小学校、中学校とも、いじめはどんなことがあってもいけないことと考えていない児童生徒がそれぞれ1%程度いました。100人に1人です。防府市は、いじめはどんなことがあってもいけないことと考える児童を100%にすることを目指そうということで、星印にあらわして、特出して課題としてあります。

小学校では、地域の行事に参加している児童が多い、朝食を毎日食べている児童が多い、学校の宿題にきちんと取り組んでいる児童が多いという望ましい状況があります。改善すべき状況としては、国語の学習が好き、大切と感じている児童が少ない、長時間テレビやビデオを視聴したりテレビゲームをしたりする児童がいる、家庭学習の時間が少ない、自分で計画を立てて勉強している児童が少ないという面が見られます。

中学校では、数学ができるようになりたいと感じている生徒が多い、朝食を毎日食べている生徒が多い、毎日同じぐらいに起きている生徒が多い、学校の宿題にきちんと取り組んでいる生徒が多いという望ましい状況があります。望ましくない状況としては、国語・数学・理科の勉強が好きと感じている生徒が少ない、長時間テレビやビデオを視聴したりテレビゲームをしたりする生徒がいる、家庭学習の時間が少ない、自分で計画を立てて勉強している生徒が少ないことが挙げられます。

また、中学校のほうでは、残念ですが、地域に関心を持っている生徒が少ないといった状況がありました。小学校では、地域の行事に参加する児童が、全国や県に比べて多いという状況を、中学生となったときの意識につながるよう、コミュニティ・スクールの充実・発展を考えていきたいと思っております。

これらの質問紙から、ゲームに興じ、携帯・スマートフォンに夢中になる児童生徒の実態も浮き彫りになってきております。一体、いつ勉強するのだろうかという現状には、学校教育課はもちろんのこと、各学校においても危機感を感じています。

最後に、3点目の学校質問紙調査結果の概要です。

校長を対象に、各学校の取り組み状況や教育条件の整備状況等に関するアンケートを行った結果についてまとめてあります。

資料の調べ方に関する指導の充実を図る必要がある、コンピューター等の情報通信技術を活用した授業の充実を図る必要があると答えた校長の割合が他県、他市に比べて多いようです。こうした現状を捉えて、現在、タブレット端末を利用して調べ学習等を行う授業に向けて、大学と連携して研究を進めております。

全国学力・学習状況調査において大切なのは、どの子がどの問題が解けなかったのかということと、その原因がどの学年のどの教科書のどのページの理解が不十分だったのか、そこでの授業が、子供たちの理解を十分保証するものであったかを判断することです。

防府市で、教育を受ける全ての子供たちの15歳の春に、それぞれの夢の実現を助けるしっかりとした学力を身につけさせることは、学校とそこで働く教職員並びに私ども教育行政に携わるもの、広くは、地域社会の責務と考えます。

全国学力・学習状況調査の結果は、今後の教育施策の方向性について、多くの示唆を我々に与

えてくれております。

お手元に配付しております資料は、今後の教育の取り組みについてまとめたものです。学校における取り組み、家庭・地域における取り組み、教育委員会の取り組みに分けて分類してみました。

今後も、教育委員会としましては、学校における教育環境の整備や、家庭・学校・地域が連携して行う教育の充実に向けて取り組んでまいりたいと考えています。

以上で、本市の学力の現状と課題についての説明を終わります。

○市長 どうもありがとうございました。スライドを使っての説明で、御理解が一段と高まったと思いますが、以上の説明の中から、皆様方の御意見を頂戴したいと思っております。

委員長、いかがですか。どの角度からでも結構でございます。

○委員長 話がちょっとずれるかもしれませんが、市長さんが主催される、教育再生首長会議でどのようなことが行われ、どのような話をされているのか、聞いてみたい思っています。

○市長 教育再生首長会議なるものについてですが、私は物心ついたころから、とにかく何をやるのも一生懸命やってきた男であります。勉強も大してできませんでしたが、一生懸命やったつもりですし、スポーツも遊びも一生懸命やりました。そういう人生を振り返って、現在孫もたくさんおり、孫の状態を落ち着いて見ることもできる環境にある中で、この先を展望して見るのに、教育こそ、人づくりこそ、日本再生の、あるいは地方創生の原動力であると、これしかないのではないかと、そのような思いの中で、全国の市長仲間に話かけていきましたら、皆、異口同音、そうだとということになりまして、私が呼びかけ人のような形で、北海道から沖縄までの市長62人が参加し、一昨年6月2日に設立総会をいたしました。

また、この会の名前をどうするかという話の中で、わかりやすいほうがいいのではないかという意見が多くあり、教育再生首長会議とスタートしました。

62人でスタートした会ですが、現在150市区町村、11町と東京都特別区が3区、村が2で、あとが市でございます。選挙でその立場が首長でなくなることもあり瞬間的には減ることもございます。しかし完璧な右肩上がり、倍増の勢いです。

年に4回、全国市長会の会議がありますので、その会議に合わせて細切れ時間を使い、勉強会と懇談会を実施しております。会場費なども皆が出し合い、勉強会参加が5,000円、懇親会は1万円というような、ポケットマネーで実施しています。その中で、教育に関して、自分たちはこういうことをやってきたというような事例発表を必ず入れており、それが先進地なのかどうなのかは別にしまして、びっくりする話を聞くこともあります。

本日は学力がテーマですから、学力に関して言わせていただくと、ある都市は、統一テストをやって、1位から10位までを表彰して、賞状を渡しメダルをかけているということです。私は

驚いたのですが、それは別に驚くことではない、スポーツ大会だったら、1等賞とか、金メダルとか銀メダルとか配っている。勉強だってそのぐらいのことはしたっていいという都市もありました。私の場合には、教育行政に対する自分のいろいろな思いもあり、あるいは教育委員会さんからお話を聞くにしても、子供たちの状態を良く知る必要があるため、教育委員会にお願いして、子供たちと一緒に給食を食べながら、ディスカッションをしていることについて事例発表をしております。それによって、今日の説明の大体の内容がよくわかるような気がしております。

この教育再生首長会議が去年の6月に第2回総会を実施し、今年6月には第3回を開催する予定でございます。第2回目には当時の文部科学大臣でありました下村大臣が講師で来られました。また、今年1月の勉強会のときは、馳文部科学大臣が講師で、その後、質疑応答なども行いました。折々に、いろいろな先生を招聘しており、4月の勉強会は、コミュニティ・スクールの大家で知られる貝ノ瀬先生に来ていただいて、コミュニティ・スクールについての熱心な討議をいたしました。

山口県は、この4月で（コミュニティ・スクール設置が）100%という形になっていますが、まだまだ全国的にはコミュニティ・スクールができていませんので、参加者はこの勉強会で大変有意義なひとときを過ごしておりますし、特に、本日開催しております教育総合会議が義務づけられたことにより、私たち首長が教育委員の先生方と会議をし、本市の教育について忌憚のない意見交換をしていくシステムが構築されましたので、皆さん、非常に関心を持たれて、中には、その教育再生首長会議に教育長同伴で来られるところがあります。本市からも杉山先生に一度参加していただいたことがあります。教育長先生と一緒に来られて、勉強会や懇談会も参加いただいたりしておる状況でございます。

首長たちは、皆さん、教育こそ日本国をしっかりとっていく一番の根幹であるという共通の思いを強く持っておられる。非常に熱心な取り組みになっています。

○委員長 ありがとうございます。市長さんはよく読書のことを言われます。子供たちにも、恐らく、いつも言ってらっしゃると思いますが、私も、本を読むのは嫌いではありませんので、子供のときからよく読んでおりました。読書に興味を持つようになったのは、幼児のころ寝る前に、父や母が話をしてくれたからだと感じています。それによって小学校に上がる前から興味を持っていろいろな絵本を見たり本を読んだりしたのではないかと思います。

学校教育課主幹からの先ほどの説明で、なぜ国語が嫌い（『国語の学習が好き、大切と考えている児童が少ない』、『国語・数学・理科の勉強が好きと感じている生徒が少ない』）なのかという問いの答えが出ておりませんでした。例えば、算数でも問題の中身をしっかりと理解しないから答えが出せないように思います。やはり文章を理解する力を持つためには、読書をしたほうがいいと思います。その読書をする中でも、小学校1年生から6年生、そして義務教育だった

ら中学校3年生まであります。先ほど勉強でも順位をつければ良いとありましたが、読書感想文また読書感想画というのもあります。それは上手な人だけが賞をとっていますが、それだけではなく、読んだ喜びのようなものも書いて、それを評価していく。1行しか書けなかった子が5行書けるようになり、5行しか書けなかった子が50行書けるようになった。そのように、読んで感性を養っていく、また、それを褒めてあげるような授業ができれば、文章の理解力が増していくのではないかと思います。

そのあたりが基本となり、国語の学力も数学の学力も両方上がっていくのではないかと思います。いかがでしょうか。

○市長 やはり、家庭における親の役割として、勉強を見てやるというのか、関心を持ってやるということがとても大事ですね。先ほど申しましたように、私には孫が9人いますが、全員防府に住んでおり3人は同居しております。嫁いだ娘も1年に1、2回泊まりにきた際に隣の部屋で本読みをして寝かしつけている姿を階段越しに見て、そういう習慣が子供を作り、育てていくのではないかなと感じます。

○委員長 感性などもすごく育っていくと思います。うれしい、悲しい、つらい、喜びなどそういう感性が育つ、物事の見方、考え方が、子供のときからずっと育てられていくことになる。「三つ子の魂百まで」と言いますが、三歳くらいのことはよく覚えているけれど、その途中がよくわからなくともありますから、そういう意味では、給食を食べながら、必ず読書しなさいと市長がおっしゃっていると聞いて、とても良いことだと思いました。それをうまく、国語の教科の中でも生かしていければいいなと感じています。

○市長 そうですね。

○委員長 頑張っていたときには、やはり頑張った評価をもらえるというのはすごくうれしいことです。皆が皆、いい点を取ることはできないと思いますが、周りから、こういうふうに関心してくれよ、こういうふうに関心してくれよというのを感じることができるようになると、点数も上がっていくと思います。そして、押しつけではなく、自然に読書をうまく進めていければいいなと考えます。

○市長 いろいろ話を聞いておられて、清水先生、どんなふうにお考えですか。何か御質問でもありましたらお願いします。

○清水委員 教育委員会も学校も学力向上に向けて、とてもしっかり頑張られていると思いますが、やはり一番大事なのは、家庭ではないかと思います。しかし家庭でも、仕事をされるお母様方、お父様方が多く、現在は、留守家庭の数も急激に増えているとお聞きしていますので、お子さんと親御さんとのコミュニケーション不足になる場合があることも考えられます。だからこそ、読書に関して言えば、家庭でできないのなら地域で読み聞かせをしていこうとか、そういう、コミ

ユニティ・スクールが大事になってくるのではないかと考えております。

○市長 はい、ありがとうございます。村田委員さん、どうですか。

○村田委員 今、ここで、資料を見せていただきまして、防府市教育委員会の取り組みがいずれも非常に重要な意味のあることで、これだけのことをこれからやらなければいけないということは、実際に携わる方の苦労は、大変なものだと思います。

やはり、こういったものを進めていく上でのマンパワーといえますか、これは、人間の数という上でもですが、人のその能力というか、力ですね、そういったものをしっかりと養っていかなければ、うまく回っていかないような気はします。

その当事者だけではなく、それ以外の周りの人たちがいろいろな形で協力をしなければ、実際に携わる方も、お困りだろうと考えております。

○市長 マンパワーという御指摘がありました。鈴木先生は長年教育の現場で頑張ってこられたわけですが、私どもが子供のころは、1クラス50人以上が当たり前で、私が小学校のころは55人ぐらいだったと思います。今は、極端な話、その半分ぐらいの学校もあるわけで、マンパワーというお話がありました。習っていることはほとんど変わっていないのではないかと感じたりもします。ただ、家庭や地域など社会の変化が、子供の学習に適合しているのかどうかということを見ると、先生方に期待するところが極めて大きくなってきます。そういう観点から、鈴木先生、いかがですか。

○鈴木委員 (本日のテーマ学力向上という観点からだけでも、教育現場に求められるものが多岐にわたる厳しい現況の中で、具体的にどう取り組んでいけばいいのか) 難しい課題になっていると思われま。

○市長 小学校の先生方は小学校の先生方で、学校だけではなくて、その、市内の先生方が一堂に会して実施する勉強会や講習会の受講、あるいは聞いてみたいような共通の課題を出して、学習するなど、そういう機会はありますか。

○鈴木委員 昔に比べたら(そういう意味での)教員の研修が多くなっていると思います。具体的な説明は学力向上推進室からの方がよいのではないかとと思いますが。

○市長 学校教育課長、そういう点は、本市だけではなくて、県教委全体の問題だろうとも思いますが。

○学校教育課長 いわゆるセミナーパークや県庁で、県全体の研修会はいくつもあります。本市は本市で、例えば、研修主任の研修会や、学力向上の研修会等の研修会をやっておりますし、今、隣におります学力向上推進室長(学校教育課主幹)は、学校を回って授業を全部見て、その後、講評しております。

それに加えて、去年は、月に1, 2回、勤務時間外に参加自由で『授業づくり研修会』を実施

したところ、三百四、五十人くらいいる小学校教員のうち、60人くらいの若い先生が参加し、夜、一緒に同学年で勉強したり、話を聞いたりということを実施しました。そういう機会は、本当に多いと思います。私が新採のころに比べても格段に多いと思います。

○教育長 補足します。

○市長 どうぞ。

○教育長 教員に採用されたら1年間条件付き採用期間があり、その間、初任研とって、特別な研修を年何十回と実施しています。1000日プランとって、新採から3年間の間にこれだけの力をつけて欲しいという、大まかな計画を立てて指導をする取り組みを県全体で行っています。

○鈴木委員 教員免許状（更新制度にかかわる研修）もあります。

○教育長 教員免許状は（有効性を維持するため）30時間以上の講習を受講する必要があり、ほかの職種に比べると縛りは厳しいのではないかと考えています。そのように期待されているわけですから、きちっとした、資質の向上等を保証するという意味での研修でございます。

○鈴木委員 本日の課題に直結しますが、授業力を高めることを目的としてこのような学力向上推進室が設けられているのは県内でも少ないのではないのでしょうか。

○市長 何室ありますか。

○学校教育課長 本市だけでございます。

○鈴木委員 学力のプロフェッショナルが各学校を回り、一人一人の先生の授業を見て指導されているということは本市だけですね。

○教育長 今年で6年目となります。室の設置に関して、市長の英断に感謝いたします。

○委員長 自分で学習計画を作れないというのは、課長どういう意味ですか。

○学校教育課長 要は、プランです。計画を立てて勉強するということについては、自分の経験からすると、何曜日の何時から何時まで何をするという計画、テスト前も計画を作っていた記憶があります。学校では、それを学級活動の時間に担任が計画表を渡して、計画を作りなさいというのはやっておりますが、恐らく、それが無い場合に、自分で計画を立てて勉強するという割合が低いということだと考えます。

○委員長 以前に見た防府市の資料の中で、（児童が家庭学習にかける時間の基準に）学年掛ける15分というのがありました。だから、その時間の中で、国語・算数・理科・社会ではありませんが、これを、例えば5分、3分ずつに分けるとかそういう計画ですか。

○学校教育課長 そういう意味ではありません。

○学校教育課主幹 学習計画というのは、家に帰ってからの活動をセーブするというので、今日は、この宿題が出たから、これとこれとこれをやらなければならないということはわかっていると思いますが、それを、どれぐらいの配分でやるかというところがセーブできていないという部

分があったりするという事ではないかと思ひます。この質問紙調査については、項目があつて、子供たちが、それは当てはまつている、当てはまつていないという回答をした集計数になりますので、個々の生徒に応じたものについては、一人一人見るしか方法がありません。学校は、全部、個々のデータを持っています。

○委員長 自分で完璧じゃないなと思つたら、できていないとこにつけてしまうこともあるわけですか。

○学校教育課主幹 質問紙調査ですから、そういう可能性は十分にあります。

○学校教育課長 自分に厳しい子と自分に甘い子がいますから。

○委員長 そういう意味ですか。

○鈴木委員 マンパワーの最たるものがコミュニティ・スクールに期待されているものではないかと思ひます。ですから、今、(教員OBが)学校に入って、自発的に学習支援をしている例もありますし、市民全員が子供たちの育ちにどうかかわっていくかということが、コミュニティ・スクールの中で達成されていくと思ひます。マンパワーというのは、まさに、教員だけではなくて、全市民が子供たちの学びにかかわっていくという視点ではないかと思ひます。その中で具体的に他市と違う取組をしている例が幾つかあると思ひますが別の機会にでも御説明いただければと思ひます。

○教育長 マンパワーで申しますと、学校の教員の指導力というのは、確実に上がつてきていると思ひます。昔の比ではありません。昔は、さつと来て、授業やつて、ぱつと帰られていた。私どもの習つた先生はそうでしたが、現在は、確実にその日の計画を立てて授業をしていると思ひますが、残念ながら、教育を取り巻く環境が変わつてきています。学校の授業だけやつても、子供たちの学びが、いわゆる「生きる力」になつていない。そうしたところで、今、鈴木委員さんが言われましたが、いろいろな人の力を借りながらやらなければいけない。そうした中で、学校の学びを本物にするために、市長が学校給食に行つて、読書だけではなくて、勉強の計画を立てなさいというのをもいつも言われています。

○市長 しょつちゅう言っています。

○教育長 はい。そういうことを言われることが、子供の心に本当に届くと思ひます。それが相まつて、やがて子供の学力につながっていく、いわゆる「生きる力」につながっていくと思ひますので、互いに力を出していかなければいけないという思ひはあります。

○市長 学校に行つて、子供たちと話をすると、私が元氣をもらいます。子供たちは素直ですから、話せばわかる、通じるものがあります。例えば、小さい学校であれば、そのクラスが1クラスだけで、給食を一緒に食べ終わった後、いろいろなディスカッションをしますが、4クラス、5クラスあると、1クラスだけで食事を一緒にして、講堂なら講堂でみんなが集まると、そこで話を

することもあるわけです。

その場合には140人から200人近い子供たちを前にいろいろな話をします。私のやり方は質問をどんどん受け、質問が途切れたときに、今度はおじさんから質問だと言って、皆に目をつぶらせて、「家に帰ってからの時間にテレビ見たりテレビゲームしたりしている時間と、本を読んだり宿題したりしている時間のほうと比べて、本を読んだり宿題をしている時間のほうが長いと思う人、手挙げてごらん。」と問いかけます。すると、学習している時間のほうが長いという子どもたちは、大体1割から2割までの間ですね。

そして、次に「計画表を持って動いている者、手を挙げてごらん」と質問します。そうすると、また、その中の1割か2割ぐらいになります。100人ぐらいいても、2人か3人ぐらい、というときがざらにあります。かと思えば、ある学校では、驚くほどたくさん手が挙がることもあります。

もっと時間があると、例えば、「学校の授業でわからないことがある者、手を挙げてごらん。算数なら算数がちょっとわからないところがあるなと思う者、手を挙げてごらん」というと、たくさん挙がります。校長、見ましたかと、僕はすぐ言います。

そこで私は、わかるようになる、簡単な方法があるから教えると言います。「小学校2年生の教科書の算数の勉強をなささい。2年生？ばかにするなよって。みんな思っているだろう。では、3年生の教科書を読んで見なささい。3年になったら、あれって思うことがもしかしたら出てくるよと。そこを突破したら、今度は4年生、4年生もあれあれと思うことがあると思うよと。6年生だから、それも、すぐ、ああ、そうだったかってわかるはずだから」、というような話をするわけです。そうしましたら、「勉強の方法を、教えていただいてありがとうございました。しっかり夏休みは、算数の低学年の教科書をもう一回読んで勉強していきたいと思います。」という手紙がきます。120通ぐらい手紙が来ますから、その文章を全部見て、その子に合った返事を書いて学校に持って行きます。特に2学期の終わりぐらいに実施して、手紙をいただいたときなどは、卒業式に間に合わなければと思い、返事を1日に3枚、5枚ずつ書いて、10日間から3週間ぐらいかけて書き上げたものを学校へ届けるわけです。

子供たちにとっては、それはどういうインパクトになるのかまた、ならないのか私にはわかりませんが、「伝記本を読んだらいいと思うよ。」とか、しっかり読書しようと思いますと書いてみると、「伝記本を読むといいよ。」とか、いろいろなことを書くようにしています。

今日は、学力を向上させるということについての会議をさせていただいたわけですが、どうか、教育委員会の皆様には、引き続き、本市の子供たちの学力向上に情熱を持って取り組んでいただきたいと思いますし、それには、こういう方法がいいというようなことがありましたら、可能なところは予算の上に反映もしてまいらねばと思っておりますので、お力添えをいただきました

いと考えております。

あと、私の気づきというか、思いですが、日本語が結構崩れてきていると感じています。例えば、犬に餌をやると、私たちは言いますが、犬に餌をあげるなどと言っている場面もあり、いろいろな日本語の使い方を、学校教育の中でも正していかなければいけないところがあるような気がいたします。

例えば、コンビニなどに行って、1,000円出すと、店員が1,000円からお預かりしますなどと言い、何かわからないと僕はいつも言っています。1,000円お預かりしますならわかると。学校の教育の中でも、家庭での日常茶飯の中においても、正しい言葉遣いできていない嫌いがあります。言葉というのは間違いなく一つの文化ですから、これがきちんとしていないと、とんでもない国家、民族になっていってしまうような気がいたしております。先生方とのいろいろな研修の折などにも、気をつけていただければありがたいと思います。

教育部長、本日の時間はどうなっていますか。

○教育部長 1時間で予定しております。

○市長 それでは、時間がなくなってきましたが、何かこのことはということがございましたら、どなたからでも結構でございます。御発言をお願いしたいと思います。よろしいですか。どうぞ。

○教育長 市長が最後にお気づきを申されました、日本語の使い方でございます。日本語の使いかたは文化ですから、子ども、教育の機能として、文化の継承というのは大事な、大きな教育の機能の一つと考えております。そうしたところで、学校教育におきまして、子供たちの言葉遣いも含めまして、そういった、文化というものを大事にしながら、子供たちの育ちを見守っていきたいと思います。

以上です。

○市長 私も、今、小学校6年生からゼロ歳まで、毎日のように顔を合わせていますので、日々、成長していく姿を見させてもらって、本当に光栄であります、まさに、子供こそ宝ですので、引き続きお願い申し上げたいと思っております。

きょうは、皆様、お疲れの中、ありがとうございました。

以上で、本日の会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○教育部長 ありがとうございました。以上をもちまして、本日の第1回総合教育会議を終了いたします。

午後4時31分閉会